

# News Letter

自治医科大学附属病院 卒後臨床研修センター

令和  
7年  
5月

新緑が気持ちいい季節です。ここ自治医科大学附属病院では、うぐいすもまだ元気に鳴いています。いっぱい太陽を浴びて、たまにはリラックスをするのもいいですね。Newsletter 第81回です。

## 【診療科紹介 救急科（救命救急センター）】

学生の皆さん、こんにちは。

新年度を迎え、新たな学年や環境に期待と不安を抱いていることと思います。

当院は三次救命救急センターとして、年間約 4,000 台の救急車を受け入れ重症患者の対応を行なっております。救命のための迅速な蘇生処置を行いながら鑑別診断を進め、適切な診療科へ引き継ぐ役割を担っています。また、年間 700 名前後の入院患者については救急科が主治医となり、初期対応だけでなく入院管理や退院後の支援まで幅広く対応しています。内因性の様々な疾患の重症患者に対応することはもちろんのこと、当院は外傷センターとして多発外傷・重症外傷患者の受け入れを積極的に行っています。加えて災害医学講座を立ち上げ、災害時の対応についても日々検討しております。

当院の研修医は、救急科スタッフ 2 名とともに初期診療にあたり、当直も同じく救急科スタッフ 2 名と一緒に対応しているため、重症患者を研修医 1 人で対応することはありません。入院患者についても救急科スタッフのチームに配属され、診察を共に行うため、実践的な経験を積むことができます。また、現在は当直明けだけでなくその翌日も休みとしてオンとオフの切り替えをしっかりと確保しています。研修中には、胸腔ドレーンや気管切開、腰椎穿刺などの救急医療において必要なスキルを経験する機会があります。ありがたいことに救急科ローテーションは 2 ヶ月を必須としておりますが、追加でローテーションしてくれる研修医の先生も複数名います。

さらに、初期研修中には院内急変の対応へ同行する機会もあります。急変時の対応は、救急科に限らず、どの診療科へ進む場合でも必要となる知識とスキルです。当院では、こうした場面での適切な判断力と実践的な対応力を養う機会を提供しており、研修を通じて幅広い臨床能力を身につけることができます。当院の救急科の医局は、全国各地から集まった多様なバックグラウンドを持つスタッフが活躍する、活気に満ちた環境です。現在、出身大学や出身地の異なる 20 名以上のスタッフが在籍しており、今年度も新たに 3 名の後期研修医が加わりました。若手の活躍も目覚ましく、在籍する救急科スタッフのうち医師 10 年目以下が 70%以上を占め、先輩医師との距離も近く、気軽に相談や質問ができる雰囲気の特徴です。

救急医療は、地域医療とも密接に関係しており、大学病院ごとに異なる特色を持つ領域です。当院の救急科がどのような環境で診療・教育を行っているのか、ぜひ一度見学にお越しください。皆さんとお会いできることを楽しみにしています。



## 【医師国家試験予想問題】

### 【問題 1】

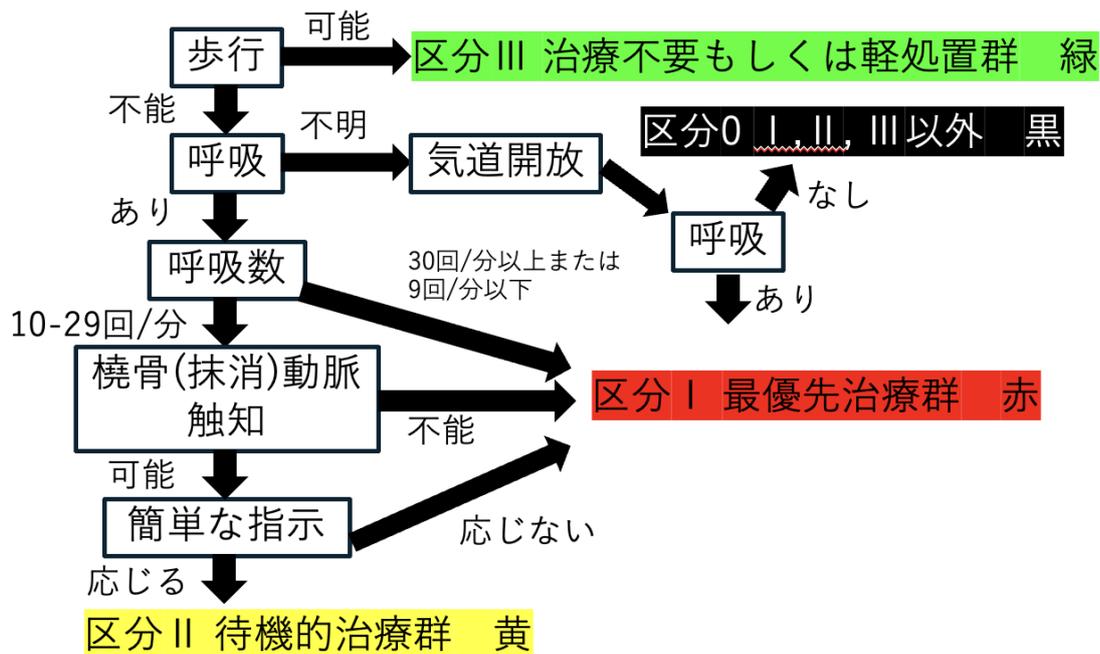
75 歳男性。バス 2 台が絡む事故による多数傷病者の中の 1 人である。歩行は可能。気道は開放しており呼吸数 32 回/分、橈骨動脈の触知は可能で簡単な指示に従うことができる。あなたは多数傷病者に対するトリアージを担っています。この患者の START 法でのトリアージカテゴリーはどれか。1 つ選べ。

- a. 赤
- b. 黄
- c. 緑
- d. 白
- e. 黒

〈解答〉 a 呼吸数>30 のため

災害時に迅速なトリアージを行い、治療・搬送の優先順位をつける必要があります。START 法は以下の図のようなフローにのりトリアージするため医師以外の医療従事者でも可能です。だからこそ医師は絶対知っておくべき知識であり、余裕があれば二次トリアージである PAT 法についても勉強しておきましょう。

Figure. START 法



【問題 2】

40 歳の男性。乗用車を運転中にトラックに追突して受傷した。ハンドルに胸部を痛打した。エアバック作動なし。シートベルトあり。

「苦しい」と言っている。HR 120 bpm, BP 80/60 mmHg, SpO2 70% (10L O2), RR 32 回/min, BT 36.5 °C。診察すると頸静脈怒張、右を中心とした胸部皮下気腫、右呼吸音減弱、右胸部は打診で鼓音を認める。直ちに行う救命処置として正しいのはどれか。

- 挿管
- 胸骨圧迫
- 開胸止血術
- 輪状甲状靭帯切開
- 胸腔ドレーン挿入

〈解答〉 e 身体所見から緊張性気胸の診断。緊急を要する疾患であり胸腔穿刺または胸腔ドレーンを挿入して脱気をはかる。